

“茶”とその文化は、 地域や国同士の友好と平和の架け橋に

顧 雯 東海大学経営学部観光ビジネス学科教授

中国と日本の「茶文化」比較

中国の大学の茶業学部を卒業後、1992年来日留学し、日本での生活も20年を過ぎました。私の研究内容は「茶文化」。日本と中国の文化比較の観点から、日本茶と中国茶を通して、両者の相違を考察しています。歴史的に茶の発生とその茶文化の起源は中国で興り、長い年月を経て多様な中国茶の世界が広がっていきました。日本にも伝わり、日本ならではの「茶の湯と茶道」が出来上がったのです。

日本と中国の茶文化比較によって、それぞれの特徴を見いだせるのみでなく、文化交流の意義を考えさせられます。例えばウーロン茶。実はほんの20年前までは中国福建省あたりのローカルティだったのですが、1980年代に日本に輸入され「健康ダイエット茶」として話題になり、今では「中国のお茶」といえばウーロン茶を思い出すほど有名になりました。日本で名声を得たウーロン茶が「錦を着て故郷に帰る」ことで、ローカルティからナショナルティ級への華麗な変身ができたのです。東洋の茶文化は、日中両国



雲南省「元宝形」の普洱茶

を含め、各地域の相互補完によって作られたものであるとも言える例です。

茶は、友好と平和のシンボル!

茶文化は、人が集い共に語り合う時の飲み物であり、友好の使者であり、平和のシンボルでもあります。時事的には両国は現在、緊張状態にあるとも言えますが、一方では例えば茶文化という、もはや世界共通の文化となった大きな財産を共有しているもの同士。今後も両国は、互いに必要な存在であり続けると考えています。

現在は、各地域の茶文化の可能性と茶のもてなしの心の再発見を試み、地域振興に貢献できるツーリズムの活性化を探っています。担当しているのは観光ビジネス学科という、とてもユニークな学科です。興味のある方はぜひ研究室に遊びにきてください!

最後に、中国では男女ともに仕事を持つのは当たり前、男女共同参画という観点では、中国の方が進んでいるように感じます。女性が経済的にも自立することで、生きる選択肢が広がることは間違いありませんよ。



中国福建省のホテルに備え付けられた茶器セット



Wen GU

機械製茶学科
茶業学部
輸出会社
日本留学
博士課程
大学教員

茶道
日本舞踊
華道・書道と...
日本伝統文化に
好奇心!

One day

7:30 起床
8:00 朝食
8:30 大学へ
9:10 就業
講義・研究指導など
18:30 帰宅→家事・夕食
21:00 翻訳と論文の執筆
23:30 就寝

◎大切にしているもの
「物尽其用」：すべてのものが
その効用を尽くすよう利用する
日本風に言うと「もったいない」
今風に言うと「エコ」

profile

ぐうえん / 1986年中国安徽農業大学茶業学部卒業。1992年来日留学。2001年大阪府立大学大学院人間文化研究科比較文化専攻博士課程単位修得。2002年九州東海大学講師を経て、2008年東海大学総合経営学部准教授。2011年より現職。専門は茶文化の比較研究と中国語教育。学生時代に茶道(表千家長生庵)で稽古しながら、茶道研究に励む。日本茶の湯文化学会会員、中国寧波東アジア茶文化研究センター名誉研究員。

アンケート より

Q.仕事上「女性」が気をつけた方が点についてのご意見

- 目標を高くおくこと
- 体力、体の声を聞くこと
- 与えられた仕事は責任をもって行う(当たり前ですが)
- 特定の男子学生をひいきしない(セクハラ疑惑につながることは避けるべき)